



高学年として自己を見つめさせる活動

自然学校評価検証委員会報告「生きる力を育む自然学校」（平成20年3月）で、自然学校の一層の充実を図るための「6つの方策」が示されています。方策5では、「子どもの成長過程を踏まえた体験活動の充実」が求められています。委員会報告の中で、「高学年では、自分との関わりを明確にし、主体的に取り組むようにすることが大切である」と言っています。活動例として、自分が挑戦したい、やってみたい活動を行う選択プログラムがあげられています。

これまでの利用校の中にも、選択プログラムを取り入れている学校があります。朝来市立糸井・竹田・枚田・東河・大蔵小学校連合では、自然学校最終日に「自然学校の思い出を作ろう」という活動で、“焼き板づくり”“藍染め体験”“ひのきホルダーづくり”から選択して活動していました。



明石市立清水小学校では、3日目に午前から午後にかけての活動として、“竹田城跡ハイキング”“サイクリング”“染め木づくり”“隠れ家づくり”から選択して活動していました。選択プログラムを実施するにあたって、いくつか留意していただきたいことがあります。



1 人的配置について

活動の指導や安全面に配慮することを考えると、それぞれの選択肢に複数の指導者を配置することが望ましいと思います。本校に登録されている技術指導員の方々を活用することも考えていただくと良いのではないのでしょうか。

2 子どもの興味関心とねらいについて

選択肢は、自然学校を実施する会場で活動が可能となる内容となってくるかと思いますが、子どもたちのやってみたい、挑戦してみたいという思いをくみ取った選択肢となるように努めていただき、あわせて、子どもたちにこのような力を付けたいというねらいも含まれていることも大切です。

3 ゆとりのある時間設定について

さまざまな活動に共通して言えることで、子どもたちがじっくり活動に取り組めるようにゆとりのある時間設定が大切です。学校では出来ない活動を子どもたちに体験させたいという思いが先走ると、子どもたちは活動を消化していだけになってしまいます。

4 振り返りについて

活動の締めくくりに、活動中の思いや出来上がった作品を発表するなどの振り返りをされていると思います。選択プログラムでは、選択しなかった活動も気になる場所です。そこ

で、一堂に会して、活動ごとの発表会を行うことで、お互いの思いや成果を共有することができ、選択プログラムのねらいに迫り、活動に深みが増すのではないのでしょうか。

各校に配布されている平成21年3月発行の「自然学校実践事例集―自然等との感動的な出会い、集団での学びと連帯感、社会的自立へのステップ―」も参考になりますのでご覧ください。

また、プログラムの中に、班別活動を行っている学校もあります。個人ではなく、班で話し合っ、南但馬自然学校でやってみたい活動を行うものです。「もう少し自然観察がしたい」「芝生広場や森のスポーツ広場で体を動かしたい」「スタンプ練習を仕上げたい」など班のメンバーと活動しています。班別活動をされる場合、月、火曜日限定ですが、本校校長と施設内を歩きながら自然観察をすることや草笛などをつくるのが可能です。少人数だから出来る活動ですので、機会があれば取り入れていただきたいと思います。

『自然体験活動1日講座』開催！

平成27年6月30日（火）に、「自然に親しむ」をテーマに第1回自然体験活動1日講座を開催しました。

午前中は、日本余暇文化振興会研究員の松井先生による「自然遊び」で、イタドリでつくる笛やススキとばし遊びなどの草花遊びをしたり、クマザサで笹舟を作ったりしました。松井先生は、「身近にある公園などは近年整備されすぎていて昔のように遊べない。自然遊びは伝承していかなければならない」と話されていました。

午後からは、「自然発見！ウォーク」を体験して振り返り、「五感」と「言語活動の充実」に視点をあてた新たなビンゴシート設問づくりを進めていきました。最近の子どもたちは自然の中で活動したり、友だちと遊んだりする機会が減ってきていると言われていています。今まで、家庭や地域で様々なことを体験していたことが、今は学校教育の中で求められようとしています。今回の講座で、自然体験活動に係る技術や指導法について研修を深め、指導力の向上を目指しました。今後の教育活動に活かしていただきたいと思います。

～受講者の感想～

- ・身近にある素材を使っているいろいろなものができるのだと思った。校庭に落ちているものでできそうなので、明日絶対やってみる。今まで見過ごしていたものも何か使えそう。
- ・自然の草木を使った遊びでは、初めてのことや発見がいっぱいでとても楽しかった。子どもの頃のワクワクした気分を味わうことができた。
- ・身近な植物を使っの工作は、近くの里山でも実践できそうなものだった。その工作活動に楽しく取り組むことができた。
- ・「自然発見！ウォーク」はやってみると想像以上に楽しかった。自分の足もとを見ながらいろいろなものを見ようとしていた。

編集後記

今回は、主体的・自発的な活動を通して、児童が達成感や自己有用感を感じられるプログラムの在り方について考えていただきたいと思います。今後の計画の参考にしていただけると幸いです。

（文責 主任指導主事兼指導課長 御栗 康嗣）